

＜空の安全・安心を！整理解雇四要件を守れ！＞ 2022.2.22

JAL闘争を支える京都の会 News No.81

京都市東山区今熊野南日吉町 17 FAX : 075-531-3856 E-mail : komai123@kfa.biglobe.ne.jp

伏見・大手筋商店街に JHU（JAL被解雇者労働組合） の／ボリ立つ！

2月15日、165名を解雇したJAL稻盛和夫会長（当時：現在JAL名誉顧問）の地元の大手筋商店街（京都市伏見区）で、JAL不当解雇撤回争議勝利をめざす宣伝行動をおこないました。「JAL闘争を支える京都の会」が呼びかけ「ユニオンネットワーク京都」に結集する皆さん、「米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会」「9条ネット・滋賀」の皆さんなど、12名に参加していただきました。JHUからは神瀬麻里子さんに参加していただきました。

JHUの神瀬さんは以下のように訴えました。「飛行機はいったんドアを閉めて離陸すると警察も救急車も消防車も呼ぶことができない。搭乗時、客室乗務員は具合の悪いお客様がいないか、不審なお客様がいないか、不審な荷物を持ち込むお客様がいないか、注意深く観察している。体調不良のお客様に声をかけて搭乗をあきらめていたいこともあった。どんなお客様が不審なのか、どんな荷物が不審なのか、その判断をするのは新人ではとても難しい。経験を積み、先輩の経験談を聞いて、これは安全だ、これはちょっとおかしいと判断できるようになる。JALは経験を積んだベテランのパイロットと客室乗務員、合わせて165名を解雇した。ベテランの社員はどの企業にとっても宝物である。新人をしっかりと教育し、一人前に育てるのがJALの大切な仕事ではないか。

今は日本中の4割の方が非正規で働くようになってしまった。いつまで自分の雇用が続くかわからない。突然雇止めになる、そんな中で安心していい仕事ができるだろうか。働くものが幸せでなければ利用者が幸せになれるわけがない。私たちは、このJALの問題が解決して私たちだけが職場に帰れば良いと思っているわけではない。誰もが安心して働ける世



の中にしたい、8時間働けば普通に暮らせる日本にしたい、その思いで闘っている。

私たちが解雇されてから11年が経った。11回もの誕生日を迎ってしまった。



JALは解雇を強行したその年から毎年1000億円以上の営業利益を上げてきた。争議が長引いても痛くも痒くもないだろう。しかし、私たち解雇されたものは10年以上賃金もなく、この運動を続けている。今、全国で33か所に支援団体がある。毎日どこかでこのJALの問題を解決させたいと動いていただいている。先月28日には最北端にある音威子府の支える会の皆さんのが総会を開いてくださった。マイナス20度の音威子府

で36名が集まり、私たちへの支援を決議していただいた。この闘いがもし負けるようなことがあれば、解雇自由な世の中になり、さらに労働者にとって辛い状況になることは目に見えている。

今、JALの客室乗務員は時間給1000円でがんばっている。出来高払いなので、コロナ感染が広がってからフライトが減ってしまい、死活問題だ。私たちはJALの安全を願ってこの解雇争議を一日も早く解決したいと願っている。



解雇された165名は職場復帰と金銭解決を求めている。JALは1月12日に予定されていたJHUとの交渉をドタキャンした。理由はオミクロン株新型コロナ感染対策である。しかし、昨年夏、緊急事態宣言が出ている時でさえ、JALは感染対策をしっかりした上で交渉を2回もおこなっている。それなのになぜ緊急事態宣言が出ていないのに、交渉拒否なのか。私たちJHUはこれに抗議している。

JAL被解雇者労働組合はあきらめることなく、これからも解雇撤回を求めていく。稻盛和夫さんが住まわれているここ伏見で、皆さんにはぜひ私たちの理解者になっていただきたい。」

ビラを受け取った人からは「この問題はもうかたがついているのだと思っていた。まだ、かたがついていないのか。稻盛氏は悪いことをした。JALには乗らない。」「京セラの株主なので、この問題は知っている。」など反応がありました。

次回 宣伝行動

(呼びかけ JAL闘争を支える京都の会)

3月8日(火)

午後2時~3時 伏見・大手筋商店街